

早稲田 岳文広報

第五十三号

発行：早稲田大学岳文会OB会

発行日：平成24年10月

<http://ob.gakubunkai.com/>

活動報告



夏合宿報告

53期 佐藤秀光

現役岳文会は、8/17(金)に黒部班・雲の平班・裏銀座1班、8/18(土)に裏銀座2班、8/19(日)に表銀座班・常念1班・燕常1班・穂高アタック班、8/20(月)に常念2班・燕常2班・笠ヶ岳班が出発し、25日(土)に上高地にて集中式を行いました。

昨年の震災による反動か、今年は新入生(55期)が40人以上と非常に多く、サークル員の3分の1に相当します。当初は名前と顔を覚えるのも一苦労で、1人の上級生で何人もの新入生を相手するというのも度々見られる光景でした。夏合宿の班編成においては、学年バランスを考慮して裏銀座2班を創設しました。コースリーダーには、登山経験が豊富な52期幹事長・藤田道太郎先輩にお願いしました。

こうして、総勢100人近くという前代未聞の規模で幕を開けた2012年度夏合宿ですが、幸運なことに北アルプスはほぼ全日程天候に恵まれ、全班行程通りに縦走を行うことができました。一人体調不良者が出て下山しましたが、他に大きな怪我はなく、上高地へと集合することができました。

私は表銀座班という男女班のコースリーダーを務めたのですが、快晴の表銀座コースは非常に気持ちがよく、充実した山行を行うことができました。とぎたま吹くそよ風がとても心地よかったです。槍ヶ岳の頂上からは、自分達が今まで歩いた長い長い道のりが見えました。班員と一緒にその道のりを眺めていると、岳文会に入って、幹事長をやった、本当によかったなあ、と感慨深い気持ちになりました。チャレンジ受験で奇跡的に早稲田に合格し、偶然の巡り合わせで岳文会に入会し、そして今そこで幹事長としてまとめている。人生は何が起ころかわからないものだなあ、としみじみ思います。

今年の夏合宿の実施に際し、OBの先輩方にはテント2張のご支援を始め、様々な援助を頂きました。おかげさまで、こうして安全で快適な山行を行うことができました。この場をお借りして、お礼申し上げます。今後の岳文会のさらなる発展をご期待ください。11月に行われるOB総会にて先輩方とお会いできることを現役一同、心待ちしております。今後とも、現役岳文会をよろしくお願い致します。

12期8人衆山陰に集う

12期 齋田 英夫

我ら12期のうち8人は2000年から夏・冬のオリンピックイヤーに旅行をしている。今回はその6回目の企画で山陰に集った。

9月22日、出雲市駅で奥村・片山・西垣・福盛と轡田の5人が集合し、西垣の車で石見銀山に向かった。銀山で広島から来た赤丸と合流し、昼前古い街道筋の町並みを散策し午後に銀山の坑道に入った。坑道見学コースは軽いハイキングのようなものである。坑道に入るときにはヘルメットを着用し懐中電灯を持って歩くという物々しい状態であった。

見学後、一路松江の宿に向かい、そこで岡田と西村が合流し8人そろった。その宿たるやお堀沿いの武家屋敷の黒塀の中にあるという一見旅館とは思えない宿だった。なんと、従業員は布団を敷き終わったら全員いなくなった。宿には我々だけであり、好きなように使ってよいとの事。若ければ深更まで鯨飲し狼藉の限りを尽くすところだったろうが、寄る年波には勝てぬと見えて、皆おとなしく寝てしまった。

翌23日、奥さんと合流し二人で旅をする西村と別れ、午前中は松江城の見学と城を取り囲む堀川を遊覧船でめぐる旅である。日本に国宝天守を持つ城は4つある。姫路城・彦根城

には及ばぬとしても、松本城・犬山城よりは松江城が立派である。ぜひ国宝に昇格させたいものである。その後堀川巡りをしたが、船から見る松江城や松江市街はすばらしい眺めであった。昼食を皆美術館で鯛めしを食べた後、安来の月山富田城に向かった。富田城と言うまでも無く、室町・戦国時代170年間にわたって中国地方を支配した尼子氏の居城である。天然の地形を利用した最も難攻不落な要塞城といわれ、「天空の城」とも呼ばれていた城である。さすがに雄大なその遺構は往時を偲ばせるものがある。その後、足立美術館に寄った。絵は日本画で主に大観、陶器は魯山人を中心に収集している。大観や魯山人を集めておけば立派なものだろうといったところか。庭園はさすがに見事である。アメリカの庭園を扱う雑誌で9年連続日本一となった庭である。アメリカ人が日本庭園として好みそうなどころだ。今日の宿は美術館のすぐ隣にある宿である。

24日、米子空港に向かう関係で、境港に向かう。境港は漁港として日本一の漁獲量を誇っている。しかし、今はそれよりも水木しげるの出生地としての観光地である。地方の町の多くがシャッター通りになっているところ、境港の水木しげるロードは平日なのに多くの人通りである。なんとこの4年間で、1000万人の人が訪れている。水木しげる様々だ。この街は妖怪とともにある。ここで、奥さんと隠岐に行く岡田と、米子空港に行く片山と別れた。残った5人は、美保神社と美保関灯台に向かった。美保神社は全国にある三千数百のえびす社総本社である。大社造の社殿を2棟並べるといふ美保造の美しい社殿である。帰路、米子空港で私が降り、米子駅で奥村はさらに旅を続け、福盛は大阪へ、赤丸は広島へ、今回の幹事の西垣は松江へと別れた。次回は来年ということで。段々暇になってきた。

各人の若干プロフィールを紹介する

赤丸 相変わらず長身・瘦躯で若いころとほとんど変わらない。いくら老けたかなという程度である。ただし、「座らなければ」である。

奥村 大ビヤ樽は資産の増大に比例し一層大きくなった。そのため膝を痛め、歩行に障害をきたしている。ボランティア活動に精を出している。

岡田 2男2女の父、孫数人の一族の長で、それにふさわしい風貌になってきた。昨年、聖跡桜ヶ丘から郷里の津へ引込んだので東京がいくらか寂しくなった。

片山 サラリーマンに全く向かないという己を知り、さっさと見切りをつけ歯科医になったのはさすがである。口を動かすの何分の一か体を動かすことを進める。

西村 東京にいながら、奥さんと奥さんの郷里の岐阜にある濃尾大地震慰霊堂を守っている。いまや岐阜の名士である。弟は社会的に見て大変偉い人(日銀副総裁)であるが、本人は自分のほうが偉いと言っている。

西垣 松江に生まれ、松江に育ち、松江に死す(だろう)。彼、こよなく松江を愛す。谷垣前自民党総裁に風貌・体型ともに良く似ている。首相にでもなれば、そっくりさんで脚光を浴びただろうがもはやその機会も無い。

福盛 この6月から大阪で社長業をやっている。一泊旅行であったはずが、二泊しようと言い出した張本人であるからしてよほど暇と見える。居ても・・・といったところか。

轡田 今や「三高」のビヤ樽おじさんである。中年の三高とは、高血圧・高血糖・高脂血症、これにビヤ樽であるからして毎日四重奏を奏でている。



2012年度 岳文OB会 行事計画

実施日	行事内容	集合場所・時間	担当者	申込締切
11月4日 (日)	文学散歩 上野から本郷へ	①上野駅中央口「翼の像」前 午後1時 ②法真寺「一葉資料館」内 午後2時半	轡田 (12期)	11月2日 (金)
11月23日 (金・祝)	親睦麻雀の集い	早稲田界限 午前10時より	赤井 (42期)	-
11月24日 (土)	総会			
12月2日 (日)	早稲田スポーツ観戦 関東大学対抗戦「早明戦」	J R千駄ヶ谷駅 午後1時	高橋 (44期)	11月24日 (土)
12月15日 (土)	就職懇談会			
2月9日(土) ～11日(月・祝)	スノー合宿 (スノーシューハイク)	蓼科高原・小田山荘	小田 (7期)	1月31日 (木)
共通ルール ①ハイキングは、昼食(お弁当)、行動食、装備など各自準備ください。 ②日程は、変更、中止があります。参加の場合は、事前に必ず連絡願います。 ③ご家族、友人、現役の方の参加も大歓迎です。				

東大構内を通り赤門を抜け、通りの向かいにある法真寺と、一葉自身が最も幸せの時代といっている「桜木の宿」(4歳から10歳)跡に向かう。方真寺の手前に旧居跡がある。法真寺の境内には一葉資料館があり、一葉の半井桃水宛書簡や短冊、写真や文献などがある。この「一葉資料館」で後半から参加する人たちと合流する。

隣の喜福寺には、佐藤紅緑や久保田万太郎の墓がある。徳田秋声の旧宅も近いので寄ってから文京ふるさと歴史館に向かう。途中、坪内逍遙旧居跡が2箇所ある。このうち最初の旧居は、その後旧伊予藩主の旧藩の子弟のための育英事業の一環としての寄宿舎「常磐舎寄宿舎」となる。ここに、正岡子規や河東碧梧桐らが住んでいた。

文京ふるさと歴史館から少し戻って、一葉が使っていた時代の井戸がある旧居跡に向かう。この場所の2箇所に一葉は住んでいた。さて次は一葉研究家を大変悩ましている久佐賀義孝なる人物の天啓顕真術の本部のあった跡である。彼との関係については当日説明する。少し戻って、一葉が足しげく通った旧伊勢屋質店を見て、半井桃水旧居跡に向かう。

半井桃水は一葉が文学上の指導を受けた人で、眉目秀麗で背が高く、一葉がほれぬいていたといわれる人物である。この近くに漱石の旧居跡があるので寄ってみよう。この旧居には後日魯迅が住んだ。魯迅は漱石を崇拝していて、漱石の住んでいた家に住みたいと願って住んだとのことである。

最後に一葉終焉の地を訪ねる。この家に、後日平塚明子(はるこ、らいちょうのこと)と心中未遂事件を起こした漱石門下の森田草平が居住した。

一葉はここで数々の名作を生み出し、貧困のうちに24歳という短い生涯を終えた。肺結核であった。

ここから、懇親会の場所へ向かう。後楽園駅前にある文京シビックセンター25階のスカイレストランである。素晴らしい夜景を見ながらの会食である。窓際の席を予約するつもりである。

早稲田スポーツ観戦

スポーツ観戦を企画いたします。多くのOB、OGの皆様と一緒に、勝利のあかつきには「荒ぶる」を歌いませんか。

◇ 関東大学対抗戦「早明戦」

1. 日時 12月2日(日) 午後2時試合開始
2. 場所 国立競技場
3. 集合 JR千駄ヶ谷駅 午後1時
4. 申込 11月24日(土)までに、44期高橋まで
・メール:
・携帯:
5. その他 試合終了後、懇親会を予定しております。

親睦麻雀の集い

伝統あるOB会のイベントに「岳文オープン」がありますが、ゴルフが出来ないため参加できずに残念という方々もいらっしゃると思います。そうした人々の受け皿として、今年には親睦麻雀を行う集いを用意します。

既に10人以上の現役が参戦を表明しており、交流や支援も兼ねた集いとなります。腕に覚えのある方、そうでない方、近い期同士でお誘い合わせのうえご参加ください。

1. 日時 11月23日(土) 午前10時~18時まで。
途中参加も可能です。その後、打ち上げも予定しております。
2. 場所 早稲田界隈=参加人数の大勢が見えてから、ハコ選びを行います。
3. 参加費 現役:場代+賞品代1,000円
OB:場代+賞品代5,000円
*場代はいつからご参加されるかにもよって変わりますが、早稲田のため格安です。

4. 賞品

現役の支援の意味合いを兼ね、さかいやや石井スポーツなど登山用品店で使える商品券等を考えております。もちろんなるべくいろんな用途に使える種類のものを選びます。それを順位に応じた分、賞品としてお渡しします。賞品代負担の関係で、期待値的には現役がかなり有利ですが、目をつぶっていただければ幸いです。

5. ルール

- ・本集いは賭博ではありませんので、相対で握りあうなどの行為も遠慮いただければと思います。
- ・現役とOBが極力同卓できるようご協力いただきます。
- ・いわゆる「アリアリ」ルールです。
- ・射幸心をあおるチップや赤などは使いません。
- ・25,000点の25,000点返し。持ち点に「1位は+20、2位は+10、3位は-10、4位は-20」の計算を行う、マイルドな形にしようと思います。(オカ無しワンツ一)

6. 申込 参加希望やお問い合わせは、42期赤井までご連絡ください。

・メール:

ある程度人数が集まれば、店を貸し切ることにも可能です。皆様の参加をお待ちしております。参加希望の方のメールアドレスでリストをつくり、詳細が決まったところでご連絡を差し上げるスタイルです。

北海道のOBから

北海道OB会は今

5期 小野 倫夫

全国の岳文OBの皆さんお元気ですか。5期の小野倫夫です。

北海道には今10名ほどのOBがいますが、北海道OB会として組織されておらず、何かのきっかけで卒業年度の近いOBが集まる程度です。

岳文50周年記念式の折、隣り合わせになった藤野 彰さん(16期)が今春北大教授として札幌の住人となり、私の事務所(NPOスポーツクラブ札幌)を訪ねてこれOB会の話になりました。

7月に、山とスキーでよく一緒にいる7期小田毘古さんがトムラウシ登山のため来道、下山後、札幌で6期の懇親会を開きました。

50周年記念の実行委員だった小田さんの働きかけによりこれを契機に北海道OB会の始まりとなりました。

北海道には今、わかっているだけで10人程のOBがいますが、転勤族は把握できないのですが、連絡があれば年に1、2度のOB会を開きたいものです。

私自身今年、会長をしている、北海道山岳連盟60周年を10月に控え何かと慌ただしく、昨日までは日本山岳協会の自然保護委員全国大会を十勝岳で実施主管団体としてそれなりにつかれましたが、今週末は大雪高原温泉へ紅葉狩りという隠れ登山です。

又、設立からいままで指導してきた中高年登山クラブも今年10周年で本州(上高地~横尾~槍)道内(函館観光と駒ヶ岳)と3本のツアーは個人山行と違い疲れませんが、無理せず楽しい健康登山です。

ともあれ、今年70才、古希ですが現職時より山に係ることが多くなり引退、隠居という歳なのだと思いますが、周りからは「することがあるからいいんだよ」と慰めとも羨望ともつかない言葉に励まされています。

札幌便り

18期 寺田 耕晴

今年4月に札幌勤務となって半年が過ぎました。

札幌単身赴任という言葉は、赴任前に様々な意味で多くの友人たちの羨望を集めました。実際に着任してみると、取引先への挨拶回りなど道内各地への出張で札幌の社宅を留守にすることが多く、今もって他人に語れるほど札幌の街（特に“すすきの”などの繁華街）はよく知りません。（注）いづれ研究成果を報告します。

もっとも早稲田を卒業後、函館湾に面したセメント工場に2度勤務した経験があり、これで北海道生活は3度目。私にとって北海道は第二の故郷、と言ってもよいほど縁深き（妻も道産子です）土地となっています。

冬の寒さは厳しいけれど、自然や景色の素晴らしさ、食材の豊かさ、美味しさは言うまでもなく、その魅力は語り尽くせません。

何といっても北海道は広大です。国土面積の22%を占め、その一方で人口はわずか550万人。ちなみに私の自宅がある埼玉県は、国土面積の1%の土地に700万人が住んでいます。

人が少ない分、野生動物と遭遇する機会が多く、私自身、これまでにエゾ鹿、キタキツネ、エゾリス、縞リス、ヒグマの親子、イルカ、川を溯上するサケの群れ等々を道内各地で目撃しています。

ヒグマやイルカは知床岬を巡る船上から、その他の動物は山歩きの途中やゴルフ場、道端などで何度も目撃していますが、特にエゾ鹿は、猟師が減ったことや保護活動の結果として個体数が大幅に増加しています。

自動車との衝突事故や農作物に被害が出るなどの問題もあり、単純に自然が回復したとばかり喜んではいけないようです。私が住んでいる札幌市中央区の住宅地では、今春ヒグマが目撃され大騒ぎになりましたが、頻繁に現れるエゾ鹿はあまりニュースになりません。

ところで、今夏は全国的に記録的猛暑でした。

北海道も例外ではなく、各地で最高気温が30度を超える日が続きました。それでも朝夕は比較的涼しく、毎晩エアコンなし（そもそも札幌の社宅にはエアコンはありません）で快眠。例年なら夏痩せするはずが、今年はビールの飲みすぎで太るばかり。

体重増加傾向にブレーキをかけようと、岳文魂（そんな言葉ありましたか？）を思い出し、暇があれば山歩きをするように努めています。

社宅から歩いて行ける藻岩山（標高531m）には既に5回登っていますが、下山後に山麓のレストランでワインを飲みながらパスタを食べるなど、都市部の低山ならではの楽しさをひとり満喫（これでは痩せない！）しています。

遠出の山なら大雪山系の赤岳（標高2078m）や黒岳、ニセコのチセヌプリ（標高1134m）やイワオヌプリなどにも登りましたが、こちらは高山植物のお花畑や温泉が魅力。十勝岳温泉や五色温泉（ニセコ）はお薦めの秘湯です。

本州のアルプスなどと比較すれば北海道の山々の標高はあまり高くはないのですが、高緯度にあるため標高1000m程度でも高山歩きの醍醐味を味わうことができます。

3年前に大雪山系のトムラウシ山で発生した遭難事故は多くの方々の記憶に残っていることと思いますが、日高や知床連峰など一部を除けば案外簡単に登れる山が多く、特に夏季は道外からも大勢の登山者（山ガール？山女？が中心）が各地を訪れます。

7月中旬、利尻島に出張した帰りのフェリーで何人もの登山姿のご高齢の方々を見かけましたが、聞けば東京から来て10時間かけて利尻山を登頂してきたとのこと。

60歳代後半とおぼしき女性たちの嬉々とした表情を見ると、利尻山が自分にとって未経験の山であることに軽い嫉妬を覚え、将来の自分を予想すると彼女たちの体力や意欲

に驚嘆せずにはいられませんでした。

さて、北海道はもうすぐ雪の季節を迎えます。

ニセコに代表される山岳リゾートは、今や海外からもスキーヤーやスノーボーダーが大挙押し寄せ、世界一のパウダースノーが体験できると評判です。

何だか北海道の観光協会の手先みたいな話になってしまいました。岳文会OBの皆様、北海道は一年中楽しさ、面白さに溢れています。

登山、スキー、カヌー（釧路湿原で体験！）、食べ物、お酒、すすきの・・・目的は何でも結構。是非“あずましい”北海道へ遊びにお越しください。

最後になりましたが、北海道在住のOBの皆様とも今後交流させていただきたいと思っています。よろしくお願ひします。



北の大地でドラマチックに仕事をしています

北海道新聞社 マーケティングセンター

26期 本 文 夫

「わたしたちの仕事は意識調査だけやって、社内にプレゼンを示すことじゃない。売れる仕組みを作ることです。若年層が新聞を読まなくなって、中高年を相手にしたビジネスとして、それに見合った人員規模に減らして会社を存続させる、それでいいんですか。あなたはここの職場長なんです。わたしがあなたの立場なら、こう言います、“やれ。ただし、しっかりやれ”」

北海道新聞社のマーケティングセンターという11人の所帯で仕事をしています。編集、販売、財務など5つの局から人が集まり、昨年7月に新設されました。

この前日、就活生に新聞を購読してもらうためのプロジェクトを広告局、電子メディア局出身の2人とともに共同提案しました。ここ数年に実施された社内の若年層対策を洗い出し、マーケティングの考え方を基に熟慮して作成したプランでした。悪い出来ではなかったと思います。

「大学生に新聞を読ませようとするのは、砂漠に水を撒くようなものだ」

職場長を含む3人から否定的な考えが示されて、及第点を得ることができませんでした。提案は却下されました。従来の対策の洗い出しに関する報告がまずかったのでしょうか。対策という名のものがターゲットを明確にしないまま作り手側の発想を基に各局各様で実施され、獲得部数は未計測、という様を明らかにしたことで、やっても無駄なのではないか、このプロジェクト自体が社内にハレーションを生むのではないか、といった懸念を生じさせたのだと思います。

否決した後で迷いが生じたのでしょうか。職場長は翌日の夕方、意識調査だけでもと代案を出してきました。浅慮。わたしの目にはそう映りました。

「わたしたちの仕事は…」 わたしは隣接する広告局の約50人にも聞こえる声で、冒頭の言葉を放ちました。意地と商量。120の眼がわたしたちを見ていました。

「分かった。やろう。結論を覆すことになるけれど、センターのみんなに明日お詫びをします」

車輪が動ききました。

わたしたちは旧知の北海学園経営学部S教授にお手伝いいただき、ゼミ生へのグループインタビューから始めました。

“有用性”というキーワードが浮かんできました。

「自分の生活への“有用性”が感じられないから新聞は読まない。たとえ低額のアプリでも使わない。“有用性”が感じられるなら、3000円でも払う」

就活生にとっての“有用性”は内定を得ること、そして社会で求められる力を身に付けること。それが実感できれば、新聞を購読する。そうした仮説が見えてきました。新聞の読み方ならぬ使い方講座を実施することに方向を定め、就活対策本数十冊に目を通し、新聞が使えるとはどういう状態か行動観察を行い、行動心理学、教授法なども泥縄式に学んで講座の実施方法を練り上げました。そして今年2月、就活生を対象に初回3時間、2回目3時間、計6時間の講義と演習をS教授とわたしたち3人が講師を務めて会社の会議室で行いました。参加25人中、7人が一人暮らしで新聞の未購読者。講義終了後、3人が北海道新聞を購読してくれました。水を撒くからダメだったのです。掘って掘って掘り進んだら、砂漠の下に含有率4割の金脈が眠っていました。

垂直展開で成果を得た後は水平展開です。販売局、経営企画局に人を出してくれるようかけあって職場横断型のチームとし、人員を3倍の9人にしてもらいました。5月からは、動員を増やすため、社外へ出て大学内で講座を開催すべく、9人で札幌近郊の大学に営業をかけました。

そうこうするうち、2月の受講生から内定の報告が舞い込むようになりました。先日、内定を祝う会を開きました。前述の3人は既に内定を得ていました。ほかに2人が参加してくれました。

「講座を受けてなかったら、内定はヤバかったと思います。部活の後輩3人に、おまえらも講座を絶対受けろよって言ってきました」

「講座自体は正直言って目新しくはなかったです。けれど、スタッフのみなさんの気持ちが伝わってきて、社会に出てからもうこうした繋がりが持てたらいいなと思いました」

“ありがとう”と言おうとして、少し言葉に詰まりました。

9月下旬からは、9人での大学の出張講義が始まります。営業の成果もあり、その対象は延べ1000人ほどになる予定です。

結婚報告

岳文会のみなさま

暑い夏も終わり、すっかり秋めいてまいりました今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。この文章を載せた会報がお手元に届く頃には、きっと寒い毎日になっていることかと思えます。

さて、私事で大変恐縮ですが、この場をお借りしてご報告させていただきます。

2012年8月25日、45期山田恭毅と48期田上慶子は結婚いたしました。結婚式や二次会にご出席いただきました皆様、また欠席でも暖かいお心遣いやお言葉をかけてくださった皆様のおかげで、当日はとても楽しく幸せな時間を過ごさせていただきました。厚く御礼申し上げます。特に45期、48期の方々には作成いただいた余興・映像は素晴らしく、ここまでしてくれる熱くて優しい仲間がいることは人生最大の出会いだと思っています。

私達について簡単に紹介させていただくと、付き合うきっかけは2005年の夏合宿で同じ穂高班になったことでした。女子中・高出身で「この気持ちが恋愛なのかな？」状態だった私は、先輩方の「秋まで待て」の教を胸に時間をかけ自分の気持ちを確認し、その年の冬にお付き合いが始まりました。そして2011年の冬に婚約いたしました。

お付き合いをしている間も様々なことがありましたが、婚約した頃とても印象的な言葉に出会いました。少し長くなりますが引用させていただきます。東野圭吾氏のある小説です。

よくいうじゃないか。運命の相手とは赤い糸で結ばれているって。…略…いいことを教えてやる。赤い糸なんてのは、二人で紡いでいくものなんだ。別れずにどちらかの死を看取った場合のみ、それは完成する。赤い糸で結ばれてたってことになる。

私達がこれから紡いでいく糸は、恐らく時には絡まってどうしようもない時や切れそうになってしまう時もあるでしょう。綺麗な糸にならなくていい、でこぼこでも幸せな糸を紡いでいけるよう、「赤い糸で結ばれてた」となるよう、2人で力を合わせ生きていきたいと思えます。

まだまだ未熟な私達ですが、どうぞ今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

45期 山田 恭毅
48期 山田 慶子(旧姓 田上)

OB 会幹事会からの連絡

平成 24 年度年会費について —11/9(金)〆切—

45期 小西麻子

会費の納入につきまして、日頃よりご協力賜りありがとうございます。早いもので今年度もOB総会を控え、年度の区切りの季節がやってきました。

現在会報は **532名**の方に送付しており、内 **186名**(除51期19名)の方に既に会費の納入を頂きました。皆様から納入して頂いた会費は、会報の作成・発送費や夏合宿・総会の運営の他、現役学生向けの就職懇談会や日々の活動の助成金として活用させて頂いております。

今年度の会費は **11/9(金)までの受付分**とさせていただきます。**51期**については今年度分の会費納入は不要です。OB総会出欠席のはがきのみ返送をお願いします。まだ今年度の会費の納入がお済みでない方は、お手数ですが、ご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

- 1) 一会員につき年額 3000 円
(夫婦会員の場合には一世帯につき年額 3000 円)
- 2) 本年は平成 23 年 11 月 26 日を平成 24 年度開始日とする
- 3) 振込口座

〔当座〕 00230-8-30118

又は **〔普通〕 店番 008 口座番号 6690731**

同封の赤い振込用紙で郵便窓口もしくはゆうちょ銀行ATMでお振込みいただくと手数料が無料です。ゆうちょ銀行備え付けの青い振込用紙もしくは他行からの振込は手数料がかかりますのでご注意ください。